

韓国における口蹄疫の発生状況 (2014年7月～2015年4月、O型)

**発生確認件数：188件
(牛5件、豚183件)**

**仁川広域市
(豚2件)**

**京畿道
(牛3件、豚53件)**

**忠清南道
(牛1件、豚69件)**

**世宗特別自治市
(豚2件)**

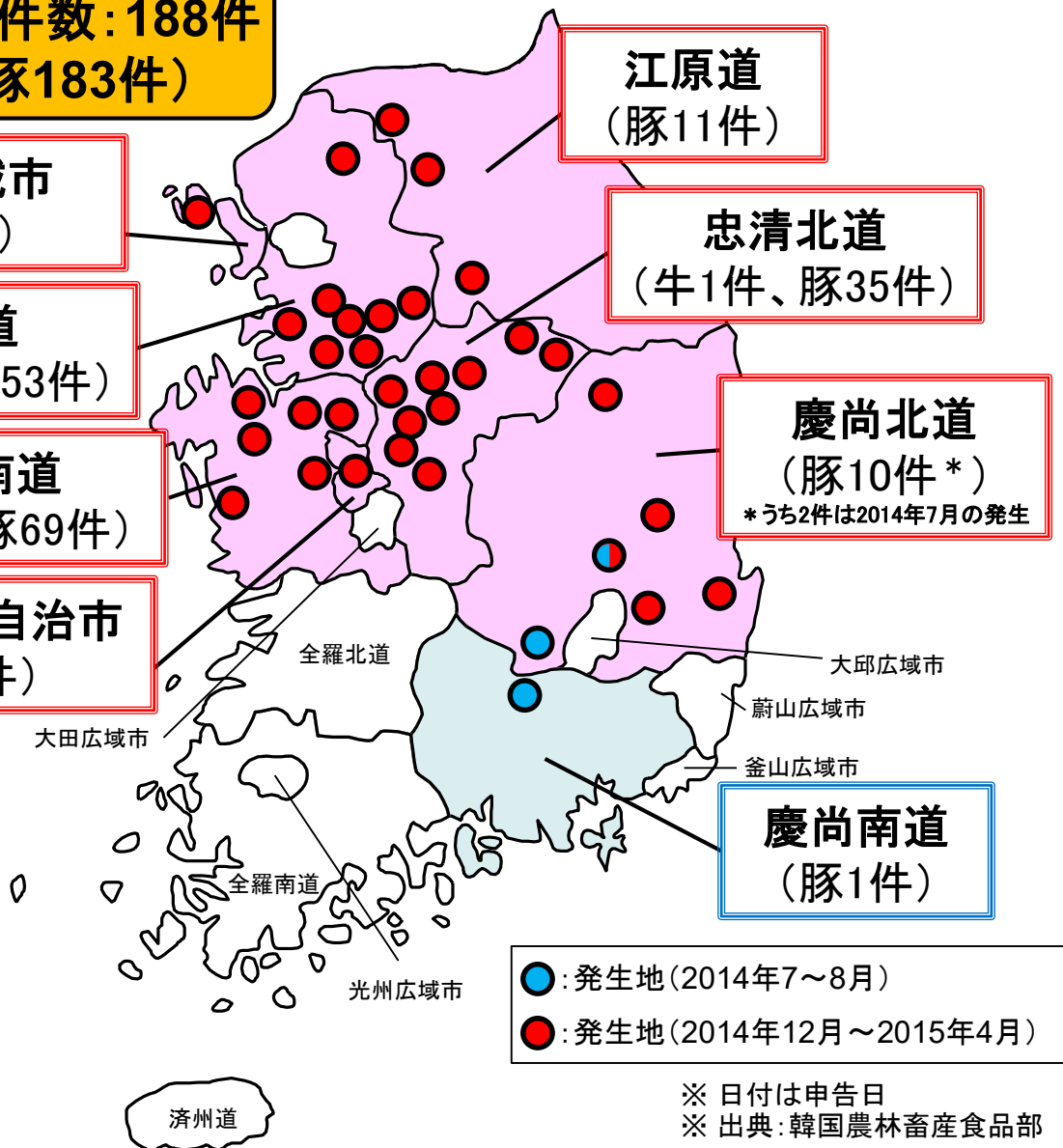
**江原道
(豚11件)**

**忠清北道
(牛1件、豚35件)**

**慶尚北道
(豚10件*)**

*うち2件は2014年7月の発生

**慶尚南道
(豚1件)**



- ・2014年7月23日に慶尚北道で3年3か月ぶりに再発し、同年8月までに慶尚北道及び慶尚南道で3件(豚3件)の発生が確認(O型)。(同年9月4日、全ての移動制限を解除。)
- ・2014年12月3日以降、2015年4月までに忠清北道、忠清南道、京畿道、慶尚北道、世宗特別自治市、江原道及び仁川広域市で185件(牛5件、豚180件)の発生が確認(O型)。(2015年5月22日、全ての移動制限を解除。)
- ・韓国では2010年12月以降、牛・豚・山羊・鹿に対して3価混合ワクチン(Asia1型・A型・O型)を接種
- ・韓国当局は、農林畜産食品部及び検疫本部に口蹄疫防疫対策本部及び口蹄疫防疫対策状況室を設置し、家畜疾病危機管理標準マニュアル、口蹄疫緊急行動指針(SOP)に基づく措置等を実施。

発生農場：抗原検出家畜及び臨床所見を示す家畜(状況に応じてこれら家畜の同居群)の殺処分・埋却、畜舎内外の消毒、家畜・車両等の移動制限措置等
発生・隣接地域：追加ワクチン接種、血清モニタリング検査及び臨床観察の強化等
全国：ワクチン接種の徹底、畜舎内外・車両等の消毒徹底、畜産農家の集会の自粛等

- ・2014年12月17日、韓国政府は危機段階を、「注意」から「警戒」に格上げ。
発生状況等を踏まえ、2015年5月に「警戒」から「注意」に、さらに同年7月には、「注意」から「関心」に引下げ。
※危機段階(4段階)：関心→注意→警戒→深刻

【これまでの経緯】

- ・2010年11月～2011年4月に発生した口蹄疫は、全8道のうち2道(全羅北道、全羅南道)と済州島を除き、韓国全土にまん延(O型、牛・豚)。
- ・韓国は2014年5月のOIE総会で口蹄疫ワクチン接種清浄国に認定。